



巻頭言

核融合50周年記念事業について

会長 松田 慎三郎

2008年は、日本における核融合研究を組織的に展開しようと、1958年に湯川秀樹博士を会長とする核融合懇談会が設立されてから50周年目の年になります。この記念すべき年にあたり、プラズマ・核融合学会では核融合50周年記念事業として様々な特別事業を計画し実施してきています。すでに実施された事業も含めて、ここでご紹介させていただきます。

1. 核融合50周年記念特集号の発刊

本特集号は、これまで核融合研究の先人達が歩んできた歴史を振り返り、現状認識を踏まえた上で、学会の会員各自が核融合研究の将来への展望を探るために発案されたものです。本学会誌の別冊「我が国における核融合の歴史と将来展望」(2008年10月)として発刊されました。日本における核融合研究の発展の歴史を時代ごと(「黎明期・揺籃期:1970年頃まで」,「成長期:1990年頃まで」)に振り返り、その中で重要な役割を果たした「共同利用と共同研究」,「国際交流」の歴史についても取り上げています。現状認識については、メディアからの質問に答える形でトカマク、ヘリカル、レーザーのそれぞれの研究機関の現状を紹介しています。また、産業界の核融合研究への関わり方を振り返り、将来の核融合炉開発に向けての産業界への貢献についての議論も見ることができます。将来展望に関しては、一つは、「選択と集中」の結果でもあるITERの時代において、大学における核融合研究と人材育成のあり方についての意見交換を紹介しています。もう一つは、核融合以外の分野を含む若手研究者による核融合研究の将来像に対する議論を載せています。最後に、日本における核融合研究の発展の歴史をフローチャートにまとめました。核融合研究の始まりから現在までの主要な事柄が時間の流れとともに把握でき、核融合研究の戦略、研究領域の広がり、選択と集中など歴史的なイベントをそのフローチャートに垣間見ることができます。

2. 核融合50周年記念シンポジウムと懇親会

記念特集号と並んでもう一つの大きな記念行事は、2008年のプラズマ・核融合学会第25回年会(宇都宮)での核融合50周年記念シンポジウムです。記念シンポジウムでは、学会における核融合50周年記念事業の紹介と記念講演を予定しています。記念講演は、50年の長きに亘る核融合研究の歴史の中で、様々な形で核融合研究の発展に貢献・尽力されてこられた先人達がたくさんおられますが、その中から石田寛人氏(金沢学院大学学長)と森茂氏(環境科学

技術研究所顧問)をお願いいたしました。記念シンポジウムの後には、できるだけ多くのシニア会員をお迎えして、懇親会を行う予定にしております。年会での記念シンポジウムのプログラムは以下のとおりです。

核融合50周年記念シンポジウム

2008年12月3日(水) 15:00~17:20

1) 50周年を迎えて(会長 松田慎三郎)

2) 記念講演

特別講演 I 金沢学院大学学長 石田寛人
「科学技術政策の行く手」

特別講演 II 環境科学技術研究所 顧問 森茂
「核融合研究事始め」

3. 核融合研究の歴史に関する展示会

核融合研究の歴史については、記念特集号でも座談会やフローチャートで振り返ることによって史実を後世に残すことができたと考えていますが、多くの会員と共に核融合の歴史を共有することも重要であると考え、2008年の年会(宇都宮)で「核融合研究の歴史に関する展示会」を開催することにしました。核融合科学研究所のアーカイブ室にご協力をいただき、記念特集号で作成した「フローチャートにみる核融合の50年」という核融合研究の時系列の系譜をポスターで掲示するとともに、核融合研究に深く関与された先生方の懐かしい写真や主要な核融合実験装置の写真等をポスター等で展示する予定です。核融合研究の主要な出来事や、シニア会員にとっては思い出深い写真を前に、若い人たちも含めた楽しい懇談の場となるように準備を進めています。

4. 賛助会員に対する報告と懇談の会

核融合研究は、未来のエネルギー源として社会貢献が期待されており、当学会の設立当初から、全国の電力会社をはじめ多くの企業に賛助会員としてご参加いただき、学会活動に対する継続的な支援をいただいています。核融合50周年記念を機に、賛助会員に対して学会活動のご報告と意見交換の場を設けることとし、2008年11月11日(火)に東京都千代田区内幸町2-1-8にある新生銀行本店ビル12階で「賛助会員への報告・懇談の会」を開催する予定です。

5. 「プラズマに関する原子分子データベースハンドブック」の出版

核融合50周年記念である2008年は、プラズマ・核融合学会発足25周年記念でもあります。そこで、プラズマの基礎や応用分野の発展に寄与するものとして、産業界にも役立つ原子分子データ集の出版を企画しました。半導体製造プロセス等でプラズマを多用する技術者を主な読者として設定し、プラズマプロセス中の分子・ラジカル反応の基礎理論を議論し、関連する原子分子データベースを収録するこ

とによって、ガイドブックとしての役割を担う出版物とすることを計画しています。半導体製造プロセスでは、プラズマやビームと固体表面との相互作用も重要ですが、今回の出版では気相反応のみを対象を絞る予定にしています。

6. 核融合50周年記念事業への募金

本記念事業を実施するにあたり、本学会の会員および賛助会員に核融合50周年記念事業への協力をお願いし、寄付を呼びかけることにしました。この寄付は、学会員自らが50周年を祝い、その事業を補うために、できるだけ多くの会員から記念の寸志（多くの方に参加いただけるよう一口2000円としました）を募るという趣旨のもと実施するものです。昨年の年会（姫路）から協力募金を開始し、2008年5月号の学会誌での募金の協力依頼も実施しました。本年6月に青森で開催された第7回核融合エネルギー連合講演会に続き、本年12月の年会（宇都宮）でも募金の呼びかけを実施する予定です。この寄付金は、記念事業経費の一部に充当させていただき、本事業終了時点で学会誌上でその用途についてご報告する予定です。